

バングラデシュ：深刻な権利侵害に対する正義を求める

2025/02/12

国連人権高等弁務官事務所

国連人権事務所の[報告書](#)は、2024年、バングラデシュで起きた学生の先導による抗議行動において、アワミ連盟の前政府と治安部隊および諜報機関が、民間の暴力的勢力とともに、深刻な人権侵害を犯したことを明らかにした。また、政府高官の証言やその他証拠から、反政府デモ参加者や同調者を攻撃し、暴力的に弾圧する公式方針があったことも明らかになり、さらなる緊急の犯罪捜査が必要な人道に対する罪への懸念が浮上した。警察やその他治安部隊が子どもたちを殺傷し、恣意的な逮捕、非人道的な状況での拘束、拷問を加えていたこともわかった。さらに、ヒンドゥー教徒、アフマディヤ・ムスリム、チッタゴン丘陵地帯の先住民族への襲撃に関連し、約100人が逮捕され、加害者の多くは、依然として処罰を受けていない。報告書では、治安部隊や司法の改革、市民あるいは政治家による異論を抑圧することを目的とした法律や制度の廃止、政治システムと経済ガバナンスのより広範な改革を実施するための一連の詳細な勧告を提示している。